

ウォー・クライの記憶

レトロなラグビー漫画『ウォー・クライ』をレビューする。



『ヤングサンデー』の前身、『マンガくんコミックス』…。その『マンガくんコミックス』はかつて伝説のラグビー漫画を世に送りだしていた！

その名も『ウォー・クライ』。

「唯一試合描写が面白かった」との呼び声高く、いまだにコアなファンを惹きつけるこの伝説の漫画を、ストーリーに沿ってレビューしてみた。

いたる場面にちりばめられた名言と、適宜挿入したコメントを突きながら、**‘激読’**して欲しい。

ウォー・クライ名言集

- ・ラグビーは紳士のやる最も野蛮なスポーツといわれ、単なるスポーツではなく、格闘技なんだぞ！
- ・ディスコいこうぜ！
- ・キンタマぶつつぶしてやる～～～っ！！
- ・その性根をな…ラグビーで叩きなおしてやるんじゃない！
- ・弘法筆を選ばず、ボウコウキンタマを選ばず、俺達はユニフォームを選ばず…ってところさ！
- ・ラグビーでは魔法の水といって、あの水をかければたいいのケガは治るんです！
- ・俺が主将だっ！！主将のいうことがきけんというのかっ！！
- ・主将の言うことが聞けないなら、さっさとフィールドから出て行け！
- ・ラグビーは、紳士がやるもっとも野蛮なスポーツといわれるが…決して野蛮人がやるスポーツじゃないんだよ！
- ・おれの体がつぶれてもいいっ！！押せえ～～！押すんだア！！
- ・龍虎は徹底的に噛み合わせておけばいいんじゃない！！
- ・こうしてグラウンドにたちあ、同じボールを追いかけ、走り回るだけだ！同じユニフォームでやるんだ！！
- ・ラグビーの要領でケンカをやってやがる…
- ・さあ、ノーサイドだ！さっさと消えろっ！
- ・グラウンドがないからといって、教える者がいないからといって、言い訳を連発して他人に頼っているうちはうまきはならん…本気でやる気になったら、恥も外聞もないもんじゃないよ…
- ・ニュージーランド？どこの遊園地のチームだ
- ・おれたちはラグビーチームだ！トライをとろうとしないラグビーチームがあるかア！！
- ・し、死んだって…このボールははなさん！！
- ・あんたは女なんだよ！それがどうした！そんなことにいつまでもこだわるんなら監督なんかやめちまえっ！！
- ・ラグビーは格闘技じゃない…頭で考えあぐむより体をぶつけあうもんじゃない
- ・おれたちは女じゃあない…今のおれたちはラガーだ…
- ・このゴールキックだけは…死んだって、この俺が蹴る！！
- ・トライなのにそれが認められなかったからじゃない！！おれたちはどうしようもない落ちこぼれでラグビーをやる資格がないと言われたからだ！！
- ・おまえらは、自分達からそのラグビーからも落ちこぼれよったんじゃない！！
- ・おれたちは学校やOB、それに高体連のためにやってんじゃないっ！ラグビーが好きだからやってんだ！！
- ・男の矜持がかかっていることだけは確かだ！受けて立つしかないっ！
- ・ラグビーはもともとサッカーのルール破りから始まった…いわば、サッカーからの落ちこぼれなんや！
- ・花園がなんだ！全国大会がどうしたっ！この試合には男の誇りがかかっているんだっ！
- ・ラグビーは一人でやるもんじゃないっ！てめえを殺してでもボールを生かすんだ！！
- ・今度やってみろ！骨を叩き折ってラグビーができないようにしてやる！！
- ・あの時おやじは…自分を殺して…‘ボール’を生かしたんだな…
- ・今おまえがタックルをしているのは…おまえがおまえのための、男の勲章をつかむためじゃない！！
- ・おれが生まれて初めて燃えてるっていうのに…水をぶっかけられんのはこの雨だけでたくんさんでェ！！
- ・約束どおり…好きなようにさせてもらうぜ！！死ぬほど…ラグビーをね！！
- ・殺せるなら殺してみろ！ラグビーで死ねるなら本望だ！！
- ・男には辛抱っていう‘ぼう’と、女には我慢っていう‘まん’があるってなア…てめえら辛抱たまらんのやったら、そのしん‘ぼう’ひっこぬいたろうかい！
- ・たしかにあいつらは落ちこぼれだわよ！けどね、少なくともラグビーをやっている時は、あなたたちよりはずっと光ってるわよっ！
- ・じゃあ、世の中ってやつは…あんたたち大人を中心にまわっているのかア！！
- ・たとえ機動隊であろうと誰であろうと…おれはこの命にかけても邪魔はさせん…
- ・相手の最大の武器を突破するのも勝負のうちだ…
- ・明日の試合には、SOとして俺の全てをかけ、もし負けたらラグビーを辞める
- ・チームプレーとはチームメートを信頼することだが…その前にチームの一人一人が自分の力を…自分の体が教えることを信頼するんだ！
- ・ロスタイムは1秒たりともないはずだっ！！さっさとノーサイドの笛を吹けえっ！！
- ・そんなに僕が信頼できないんですか！だったらグラウンドから放り出してください！グラウンドではおかしなやさしさなんかありません！！
- ・浩は死んだ…戦って死んだんですっ！！
- ・俺は今、扶桑のジャージを着てんだっ！！
- ・俺達は俺達のためにやったんや！！誰の手も借りずに俺達の手だけで…‘おれたちの大会’が持ってた意味はそれだけだったんや！！
- ・わき目もふらず、精一杯何か一つのことに打ち込む…それが若い人の特権だ！それを持てる人は幸せだよ…今の若い人の多くが、その権利を放棄している…若い時は二度と戻ってはこないというのにね…
- ・さあ、そこの土を食ってみろっ！！おまえを‘半人前’に育ててきたコヤシだ！！
- ・男のくせに女に惚れたこともねえ半人前だから…ラグビーで死ねたら本望だなんて、偉そうな口をたたけるんだよっ！！
- ・ラグビーのボールってやつは…女そのものだけ！！そして、ラグビーは人生そのものともいう…たかがラグビー…されどラグビー…だ！！
- ・ラグビーはおれのすべてなんだ！！

ウォー・クライの漢達

叶



叶 闘志也。漫画『ウォー・クライ』の主人公。父親をある理由から半殺しにした罪で、グレル。そこを蓬萊校長に拾われ、冴木監督により、扶桑高校ラグビー部の主将に任命される。ポジションはSO。彼が発するアツい言葉の数々は見逃せない。また、自分に課すハードルを上げてはエグる典型的なM男である。「俺の体はうれしくてふるえてるんだぜ…！」「俺の命にかけても邪魔はさせん…」

真木



扶桑高校ラグビー部の一員であり、一匹狼の叶とは対照的にメンバー達の親分格である。漫画の序盤にかけて、叶と反目しあい、叶と併せて‘龍虎’と言わしめた男。叶との対立は、度々チームに危機をもたらすが、それをなんとか乗り越える。ポジションはNo.8。しかし、叶と結束した後は存在感のないただの1キャラになりさがってしまう、やや悲しい男。

ブル



本名は豪田。扶桑ラグビー部の中で、屈指のパワーを誇る大型プレイヤーである。また、その実力にも波も少なく、決して当たり負けることのない安定した活躍ぶりをみせる。ポジションはHO。元不良ではありながら、三枚目の地位を確立している。作者のお気に入り度が特に高いキャラであり、少年院戦では真木に代わってNo.8に入り、獅子奮迅の活躍をみせる。

伊達



伊達 銀次。一度は蓬萊校長からのオファーを断った、7人制ラグビー経験者。途中から扶桑ラグビー部に合流する。途中出場のキャラながら、そのBKプレイヤーとしてのテクニックは全キャラ中でも随一。真木に代わってあっという間に作中描写における主要キャラになる。キレてレフェリーを殴るクセがあるのが弱点であり、その彼の行動が扶桑ラグビー部の大きな分岐点となる。ポジションは2CTB。愛車は原チャリ。

ネコ



本名は猫田。ブルとともに仲が良く「ホモなのではないか」と噂される。パワーのブルに対し、スピードのネコ。窃盗犯だったころに活かした俊足やジャンプ力を、今度はラグビーに活かす。そのスピードはオリンピック選手を凌ぐレベルであり、SO 叶のハイパントをインゴールでキャッチし、そのままトライする‘ネコ返りトライ’は、扶桑の持つ必殺技の一つだ。体は小さいが、ガッツはNo.1。作者のお気に入り度もかなり高い。ポジションはWTB。

白鷺



白鷺 弾。無名の扶桑とは異なり、高校ラグビーの名門「堂園」のエースプレイヤー。ひょんなことから、叶率いる扶桑の対外試合を引き受けることになり、以後関わり合いを深めていく。はじめはお互いに挑発しあうなど、仲の悪かった扶桑・堂園の両校であったが、次第に人間的にも技術的にも成長していく叶達に傾倒していく。ポジションはSO。

天生



白鷺を擁する「東の堂園」に対し、永遠のライバル校「西の亢竜」を忘れてはいけない。天生(あもう)は、亢竜高校のエースプレイヤー。堂園が扶桑との試合を優先させて花園を辞退したため、あっさりと日本一になる。しかし、優勝旗授与をボイコットし、堂園を破った扶桑との決闘を申し込む。懐の広いキャラである。ポジションはSO。

岡部



ニュージーランド(NZ)にラグビー留学し、その間にNZ 高校選抜のSOを務めるほどの天才的プレイヤー。NZの一員として扶桑の認可試合で顔を合わせ、以後、白鷺とともに扶桑と関わりを深めていく。帰国後、関東No.2の久世沢高校の一員として、大会に臨むが、周囲とのレベルのギャップに苦しむ。そのテクニックとセンスは圧倒的。ポジションはSO。

サブ



本名は佐武。東光少年院に服役している、凶暴な男。その体の大きさとパワーは、日本人としてはケタ違いである。少年院が扶桑にならって矯正プログラムの一環としてラグビーを取り入れていたことから、叶達とあいまみえることになる。その凶悪な性格もあいまって相手をしばしば再起不能に追い込む危険なプレイヤー。ポジションはNo.8。

蓬萊校長



蓬萊 大三。元ラグビー日本代表の監督。全国から不良少年をスカウトし、「1年間だけラグビーをやればあとの2年は遊んでも高校を卒業できる」という条件で、高校及びそのラグビー部を設立した。それが扶桑高校ラグビー部である。その指導力は素晴らしく、彼らの矯正に見事成功する。その迫力と気合、そして威厳は凄まじい。

冴木監督



冴木 麗緒。蓬萊校長が、扶桑ラグビー部に迎え入れた監督。男勝りな女性である。ガチンコファイトで扶桑ラグビー部員達を手なずけるなど、実力(ケンカの)は相当なもの。だが、彼女が予想した結果はことごとくはずれに終わり、校長が相変わらずチームを仕切るので、案外監督に向いていない疑惑が浮上している。

日輪ちゃん



日輪 亜紀子。冴木監督に騙されるような形で、悪たれラグビー部のマネージャーをやることになってしまった、扶桑高校の女の子。はじめは、不良たちを毛嫌いする日輪ちゃんであったが、次第にラグビーにのめりこんでいくようになる。将来の夢は医者である。ちなみに、彼女の父も医者である。